

平成30年度市民文化祭 ミニ講演 蕨由美

下高野の石造物の調査から

- ① 庚申塔の道しるべはどこを指す？
- ② 男・女の講の石建てはいつも一緒？

庚申塔と道しるべ

庚申塔は、庚申信仰に基づいて「庚申講」が建てた石塔です。下高野では、江戸時代のが7基あり、享保12年と宝暦8年銘の2基は青面金剛像の浮彫り、安政5年の文字塔は、篆刻の凝った字体です。

下高野の庚申塔の特徴は、明治28年から昭和40年の9基が道標を兼ねた庚申塔で、ムラ往還の分岐点などの要所に配置されていることです。

道標を兼ねた庚申塔9基(明治28年～昭和40年)と、「米本いなり道」参詣用道標(推定:明治中期)1基の10基の行先地名を調べてました。

下高野の石造物所在地マップ



明治初期の迅速測図上の石造物所在地マップ



道祖神前の交差点路傍 ⑩の
「米本いなり道」参詣用道標



No	E13	八千代市域道標調査票																	
種 類	参詣用道標 (米本稻荷)		案内図 																
像 容	文字碑																		
形 状	駒型																		
造立年月日	不明																		
所在地・立地状況 八千代市下高野202-1 下高野ゲートボール場前四叉路																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>左面</th> <th>正面</th> <th>右面</th> <th>背面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>左 ほ し か 道</td> <td>此 方 米 本 い なり 道 当 区 立 石 傳 右 門</td> <td>右 志 も ち や 白 井 さ ら 道</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>480</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>142</td> <td>240</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				左面	正面	右面	背面	左 ほ し か 道	此 方 米 本 い なり 道 当 区 立 石 傳 右 門	右 志 も ち や 白 井 さ ら 道		20	480			142	240		
左面	正面	右面	背面																
左 ほ し か 道	此 方 米 本 い なり 道 当 区 立 石 傳 右 門	右 志 も ち や 白 井 さ ら 道																	
20	480																		
142	240																		



道標付の庚申塔 明治39年
 地点⑭から現在は福蔵院②に移動

No		E09		八千代市域道標調査票	
種	類	庚申塔(庚申)		案内図 	
像	容	文字碑(日月)			
形	状	駒型			
造立年月日	明治39年(1906)3月吉日				
所在地・立地状況					
八千代市下高野335-2					
山林内旧道 ゴルフ場境					
左面		正面		右面 背面	
40		40		40	
705		705		705	
50		50		50	
280		310		475 x 430	



③のゴルフ場内の
大正2年銘の道標付庚申塔

No	E08	八千代市域道標調査票			
種類	庚申塔(庚申)	案内図			
像容	文字碑(8月)				
形状	駒型				
造立年月日	大正2年(1913)3月吉日				
所在地・立地状況		八千代市下高野400-2 八千代パブリックゴルフ場内路傍			
		左面	正面	右面	背面
		50 540 北保田渡船 285	(月) (日) 庚申塔 西米本稻荷 中区野高下 300	南上高野	東白井 大正二年三月吉日



⑤地点の大正15年の道標付庚申塔

銘文：庚申塔 米本城橋道 上高野道
青菅臼井道

⑥地点の昭和15年の道標付庚申塔

銘文：庚申塔 下高野講中

北 米本いなり道 東 先崎 青菅道 西 米本城橋道



⑨の地点 昭和40銘の庚申塔

銘文：「庚申塔 東 先崎ニ至ル
西 大和田ニ至ル 正面 志津ニ至ル」



下高野の道標 一覧表

No.	場所	造立年月日	西暦	銘文 (造立年月日略)
	⑪	(明治中期か)		此方米本いなり道 当區 立石傳右工門 右 志もかうや 臼井 さくら道 左 ほしな道
9	①	明治 28・3・吉	1895	庚申塔 当区講中 西 米本 城橋 道 北 先崎道 東 青菅 臼井道
10	②	明治 39・3・吉	1906	庚申塔 東 先さき 青すけ (佐くら) 道 右 米本いなり道
11	③	大正 2・3・吉	1913	庚申塔 下高野区中 西 米本稲荷 南 上高野 北 保品渡船 東 臼井
12	④	大正 9・3・吉	1920	庚申塔 下高野講中 西 米本いなり道 此方 米本 城橋道 東 青菅 臼井道
13	⑤	大正 15・3・吉	1926	庚申塔 米本 城橋道 上高野道 青菅 臼井道
14	⑥	昭和 15・3・吉	1940	庚申塔 下高野講中 北 米本いなり道 東 先崎 青菅道 西 米本 城橋道
15	⑦	昭和 27・3・吉	1952	庚申塔 下高野講中 此ノ方 米本二至ル 此ノ方 當區二至ル 北ノ方 先崎二至ル
16	⑧	昭和 33・3・吉	1958	庚申塔 北ノ方保品二至ル 西ノ方米本二至ル
17	⑨	昭和 40・3・吉	1965	庚申塔 下高野講中 東 先崎二至ル 正面 志津二至ル 西 大和田二至ル

下高野の道標 10 基（内 庚申塔 9 基）が示す行先地名の頻度

方面	地名	頻度	地名	頻度	地名	頻度	地名	頻度
東	先崎	5	青菅	5	臼井	5	佐倉	2
西	米本稻荷	5	米本城橋	4	米本	2		
南	上高野	2	志津（昭和 40）	1	大和田（昭和 40）	1		
北	保品	3						
自地区	下高野	1	当区	1				

道標の建立された時代＝明治初期（推定）～昭和 40 年（1965）

庚申塔の道しるべはどこを指す？

道標を兼ねた庚申塔9基(明治28年～昭和40年)と、「米本いなり道」参詣用道標(推定:明治中期)1基の10基の行先地名を調べてました。

表のように、東西方向の道案内が顕著で、西は米本稻荷神社と城橋へ、東は先崎・青菅の隣村や臼井宿・佐倉城下を示す傾向が見られます。

参詣先の米本稻荷神社は寛政11年(1799)の創建、その本殿再建寄附連名碑には、参詣用道標を造立した立石傳右エ門も名を残しており、明治中期ごろから、下高野や佐倉方面からの参詣が盛んであったと思われます。

米本城橋は戦前まで生活用品の入手に便利な場所、戦後の行先は、駅やバス停を示す志津・大和田・先崎となりました。

米本稻荷神社
(八千代市指定文化財)



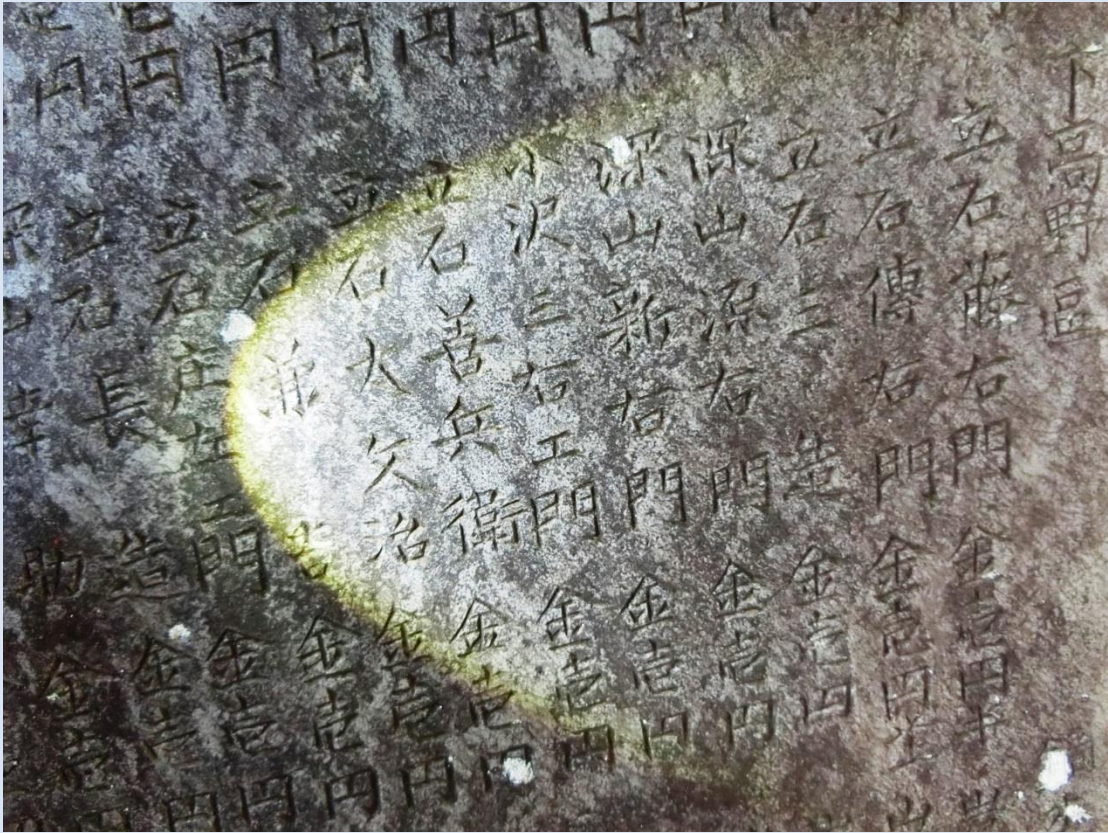
稻荷神社本殿再建
寄附連名碑
(明治27年)



米本城橋



本殿再建寄附連名碑の下高野の人々



下高野區
立石藤右門
立石傳右門
立石三造
深山源右門
深山新右門
小沢三右工門
立石善兵衛
立石大文治
立石兼吉
立石庄左工門
立石長造
深山幸助

男・女の講による石塔同時建立を検証する

男性の講の石塔

- ・庚申塔
- ・出羽三山塔 (下高野では「奥州講」が主体)
- ・二十三夜塔 (八千代佐倉市域では二十三夜講は一般的に男性の講)
- ・二十六夜講 (「若者中」の銘あり)

女性の講(女人講)の石塔

- ・十九夜塔
- ・子安塔(下高野では全て「十九夜」)
- ・秩父塔



庚申塔「享保12年10月吉日」



十九夜塔「享保12年10月吉日」



庚申塔「宝曆6年10月」



十九夜塔「宝曆6年10月19日」



出羽三山塔「寛政6年11月吉日」



如意輪観音塔「寛政6年11月吉日」



二十三夜塔「安政2年2月吉日」



十九夜塔「安政2年3月19日」

下高野の女人講と男性の講の各石塔造立時の比較 江戸時代

女性の講の石塔					男性の講の石塔				
種類	造立年月日	西暦	間隔	像容	種類	造立年月日	西暦	間隔	像容
十九夜塔	享保 12・10・吉	1727		如意輪	庚申塔	享保 12・10・吉	1727		青面金剛
十九夜塔	宝暦 6・10・19	1756	29	如意輪	庚申塔	宝暦 8・10	1758	31	青面金剛
十九夜塔	安永 7・10・吉	1778	22	如意輪					
					庚申塔	寛政 2・11・吉	1790	32	文字
如意輪観音塔	寛政 6・11・吉	1794	16	如意輪	出羽三山塔	寛政 6・11・吉	1794	4	文字
十九夜塔	文化 3・2・吉	1806	12	如意輪	庚申塔	文化 6・11・吉	1809	15	文字
					二十六夜塔	文化 12・11・26	1815	6	文字
十九夜塔	文政 3・11・吉	1820	14	如意輪	庚申塔	文政 5・11・吉	1822	7	文字
十九夜塔	文政 10・11・19	1827	7	如意輪					
子安塔	天保 10・11・吉	1839	12	子安像					
十九夜塔	弘化 4・11・吉	1847	8	如意輪					
十九夜塔	安政 2・3・19	1855	8	如意輪	二十三夜塔	安政 2・2・吉	1855	33	文字
					庚申塔	安政 5・11・吉	1858	3	文字
					庚申塔	文久元・3・吉	1861	3	文字
十九夜塔	文久 4・2・吉	1864	9	如意輪	出羽三山塔	文久 3・3・吉	1863	2	文字



庚申塔「明治39年3月吉日」



十九夜塔「明治39年3月吉日」



庚申塔「大正15年3月吉日」



十九夜塔「大正15年3月吉日」



庚申塔「昭和15年3月吉日」



十九夜塔「昭和15年3月吉日」



庚申塔 十九夜塔「昭和47年3月吉日」

庚申塔 十九夜塔「平成26年3月吉日」

下高野の女人講と男性の講の各石塔造立時の比較 近代～現代

女性の講の石塔					男性の講の石塔				
種類	造立年月日	西暦	間隔	像容	種類	造立年月日	西暦	間隔	像容
十九夜塔	明治6・5・吉	1873	9	如意輪					
十九夜塔	明治13・4	1880	7	如意輪					
十九夜塔	明治21・4・吉	1888	8	如意輪	庚申塔	明治22・4・吉	1889	26	文字
十九夜塔	明治28・3・吉	1895	7	如意輪	庚申塔	明治28・3・吉	1895	6	道標付
十九夜塔	明治33・3・吉	1900	5	如意輪					
十九夜塔	明治39・3・吉	1906	6	如意輪	庚申塔	明治39・3・吉	1906	11	道標付
十九夜塔	大正2・3・吉	1913	7	如意輪	庚申塔	大正2・3・吉	1913	7	道標付
十九夜塔	大正9・3・吉	1920	7	子安像	庚申塔	大正9・3・吉	1920	7	道標付
十九夜塔	大正15・3・吉	1926	6	如意輪	庚申塔	大正15・3・吉	1926	6	道標付
十九夜塔	昭和8・3・吉	1933	7	子安像					
子安塔	昭和15・3・吉	1940	7	子安像	庚申塔	昭和15・3・吉	1940	14	道標付
十九夜塔	昭和27・3・吉	1952	12	子安像	庚申塔	昭和27・3・吉	1952	12	道標付
十九夜塔	昭和33・3・吉	1958	6	子安像	庚申塔	昭和33・3・吉	1958	6	道標付
十九夜塔	昭和40・3・吉	1965	7	子安像	庚申塔	昭和40・3・吉	1965	7	道標付
子安塔	昭和47・3・吉	1972	7	子安像	庚申塔	昭和47・3・吉	1972	7	文字
十九夜塔	昭和54・3・吉	1979	7	子安像	庚申塔	昭和54・3・吉	1979	7	文字
十九夜塔	昭和61・3・吉	1986	7	子安像	庚申塔	昭和61・3・吉	1986	7	文字
子安塔	平成5・3・吉	1993	7	子安像	庚申塔	平成5・3・吉	1993	7	文字
十九夜塔	平成12・3・吉	2000	7	子安像	庚申塔	平成12・3・吉	2000	7	文字
十九夜塔	平成19・3・吉	2007	7	子安像	庚申塔	平成19・3・吉	2007	7	文字
十九夜塔	平成26・3・吉	2014	7	子安像	庚申塔	平成26・3・吉	2014	7	文字

男・女の講の石建てはいつも一緒？

下高野では、庚申塔・出羽三山塔・二十六夜塔・二十三日夜塔を男性の講の石塔として、女人講の32基と対応させてみると、享保12年10月吉日建立の庚申塔と十九夜塔をはじめとして、24例でほぼ一致する事例となりました。

また、女人講石塔は弘化4年から現代まで(太平洋戦争時を例外に)ほぼ7年間隔に建てられ、庚申塔も大正2年から女人講石塔と同時に7年間隔で建てられるようになったと思われます。

八千代市内の男・女の講の同時建立例



吉橋の尾崎大師堂
寛文8年(1668)10月10日
二十三夜塔(男性18名)
&
日記念仏塔(女性16名)



吉橋の寺台公会堂
寛文8年(1668)10月10日
二十三夜塔(男性22名)
&
日記念仏塔(女性30名)



麦丸台庚申塚
元文5年(1740)11月17日
庚申塔
&
麦丸長福寺
同年同月19日
十九夜塔

八千代市内（下高野地区を除く）の女人講石塔と男性の講の石塔の同時造立の事例

	地区	女人講石塔	造立年月日	西暦	男性の講の石塔
1	吉橋 尾崎	日記念仏塔（地蔵像）	寛文 8・10・10	1668	二十三夜塔（勢至像）
2	吉橋 寺台	日記念仏塔（聖観音像）	元禄 5・2・23	1692	二十三夜塔（勢至像）
3	萱田 長福寺	十九夜塔	正徳 3・9・吉*	1713	念仏塔（大日如来像）
4	吉橋 尾崎	十九夜塔	享和 3・10・吉	1718	庚申塔
5	村上	十九夜塔	享保 11・10・19*	1726	庚申塔
6	麦丸	十九夜塔	元文 5・11・19*	1740	庚申塔
7	村上	十九夜塔	寛保 4・2・吉	1744	庚申塔
8	吉橋 高本	十九夜塔	宝暦 9・10・吉	1759	庚申塔
9	村上	十九夜塔	明和 4・11・吉*	1767	庚申塔
10	吉橋 花輪	十九夜塔	安永 4・12・吉	1775	庚申塔
11	吉橋 高本	十九夜塔	寛政 6・11・吉	1794	庚申塔
12	麦丸	十九夜塔	寛政 8・10・吉	1796	出羽三山塔
13	米本	十九夜塔	寛政 9・10・吉	1797	庚申塔
14	吉橋 花輪	十九夜塔	寛政 12・11・吉	1800	庚申塔
15	村上	十九夜塔	文化 12・11・吉	1815	庚申塔
16	村上	十九夜塔	文化 13・2・吉	1816	庚申塔
17	下市場	十九夜塔	文政 2・2・吉	1819	庚申塔
18	米本	十九夜塔	文政 2・3・吉*	1819	庚申塔
19	吉橋 花輪	如意輪観音塔	天保 3・11	1832	庚申塔
20	吉橋 尾崎	十九夜塔	天保 5・11・吉	1834	庚申塔
21	吉橋 高本	十九夜塔	天保 9・3・吉	1838	庚申塔
22	吉橋 花輪	十九夜塔	弘化 4・2・吉	1847	庚申塔
23	神野	十九夜塔	嘉永 4・11・吉	1851	庚申塔
24	吉橋 高本	如意輪観音塔	文久元・11・吉	1861	庚申塔
25	吉橋 尾崎	十九夜塔	文久元・11・吉	1861	庚申塔
26	吉橋 花輪	子安塔	明治 18・12・吉	1885	庚申塔
27	吉橋 高本	十九夜塔	明治 20・11・吉*	1887	庚申塔
28	村上	十九夜塔	明治 27・10*	1894	出羽三山塔
29	吉橋 花輪	子安塔	昭和 43・11・10	1968	庚申塔

*は1月以内の違い

女人講と男性の講のシンクロする 八千代市内での同時建立例は？

女人講石塔と男性の講の石塔の同時建立の事例を、八千代市内でも、調べてみました。

その結果、下高野地区を除く八千代市内では、近世で25例、近現代で4例、計29例が一致しました。

特に江戸前期では、女人講と男性の講が時を一にして石塔を建立する村も多く、これらのムラ内では、女人講に集うおかみさんたちの地位がダンナ衆と同格であり、女性の地位が信仰行事では対等だったと推定できました。